

実務家教員育成研修プログラム【eラーニング講座シラバス】

No	eラーニング講座名	eラーニングの到達目標	eラーニングの学修項目	eラーニングの学修項目毎の到達目標	学修時間
					eラーニング
<b>1 実務家教員の教養講座</b> 【講座の目的】実務家教員としての教養を高め、教育・研究者としての資質を養う。					<b>6.5</b>
	KOSEN-REIM ～KOSEN型産学共同インフラメンテナンス 人材育成システムの構築～	「KOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築」の取組について理解する。	1.KOSEN-REIM事業の概要 2.橋梁メンテナンスに関するリカレント教育プログラム 3.インフラメンテナンス分野の実務家教員育成	1)KOSEN-REIM事業の目的と概要を理解している。 2) e + i M e c 講習会の特徴と橋梁メンテナンスに関するリカレント教育プログラム体系について説明できる。 3)インフラメンテナンス分野の実務家教員の定義と実務家教員育成研修プログラムの概要を理解している。	1
	Society5.0と実務家教員	Society5.0の特徴とリカレント教育の必要性、及び、実務家教員に何が求められるかを理解し、実務家教員としての自らのキャリアパスをイメージする。	1.Society5.0 2.実務家教員とは何か 3.実務家教員のキャリアパス	1)Society5.0とは何かを理解し、生涯学習とリカレント教育について説明できる。 2)学術教員と実務家教員の違いを理解し、実務家教員に必要とされる3つの能力について説明できる。 3)実務家教員のキャリアの核を認識し、実務家を目指すために必要な行動は何かを説明できる。	1
	実践と理論の融合	実践の理論として、実務経験を言語化して共有可能な実践的知識とし、その実践的知識の有用性を示すことの必要性、及び、実践の理論を構築する過程と方法について理解する。	1.実務家教員にとっての研究能力 2.「実践の理論」とは何か 3.実践の言語化 4.「実践の理論」に向けて	1)実務家教員にとっての研究能力とは何かを説明できる。 2)「実践の理論」とは何かを知り、暗黙知と形式知、実践知と実践的知識の違いを理解している。 3)省察の重要性とその方法を理解し、自らの実践を言語化する足掛かりを得る。 4)自らの実務経験から実践の理論を構築していくプロセスについて具体的にイメージできる。	1
	高等教育と成人教育	高専の教育課程を担う際に必要な高等教育に関する基礎知識を理解し、実務家教員としての活躍の幅を広げるとともに、成人教育に関する基礎知識を理解し、実務家教員としてリカレント教育において社会人に対する効果的な学習支援と教育の実践を行う。	1.高等教育（高等教育の概要、これからの高等教育、実務家教員への期待） 2.成人教育（成人教育の概要、ノールズのアンドラゴジー、成人教育の留意点）	1)日本の高等教育の概要と基礎知識を理解し、これからの高等教育における実務家教員の役割を認識する。 2)成人教育の概要と基礎知識、成人の学びの特性を理解し、社会人対象の教育プログラムでは教える側に何が求められるかを説明できる。	1
	コンプライアンスと倫理	実務を行う技術者として必要な技術倫理と技術者倫理について再確認するとともに、実務家教員となって高専でリカレント教育プログラムの講師を務めることを視野に、国立高等専門学校機構のコンプライアンスについて理解する。	1.安全安心社会のための技術倫理コース（JST e-learning教材） 2.事例に学ぶ技術者倫理コスト（JST e-learning教材） 3.国立高専機構コンプライアンス	1)各倫理規定・要綱に共通する要素である、①公衆優先原則、②持続性原則、③有能性原則、④真实性原則、⑤誠実性、⑥公正性原則の意味する内容を理解し、技術者が果たすべき注意義務について説明できる。 2)具体的な事例について、技術者倫理の観点から解説できる。 3)国立高専機構における教職員の行動指針の全体像とポイントを理解する。	2.5
<b>2 実務経験と専門性の棚卸講座</b> 【講座の目的】実務経験を言語化して体系化し、実務家教員として専門性を認識する。					<b>0.5</b>
	実務経験と専門性の棚卸講座	実務経験を言語化する方法を再確認するとともに、事前課題「実務家教員としての自己紹介」スライドの作成目的、作成要領、提出方法を理解する。	1.実務経験を言語化する（複数） 2.「実務家教員としての自己紹介」の作成（事前課題説明） 3.事前課題の提出	1)実践的知識とは何か、及び、実践を記述するための省察の重要性とその方法（リフレクティブ・サイクル）を説明できる。 2)「実務家教員としての自己紹介」スライドの作成目的、説明対象、及び、作成要領について理解する。 3)事前課題の提出方法を理解する。	0.5
<b>3 実践講義力養成講座</b> 【講座の目的】講義力とファシリテーション力を身につけ、講師としての魅力を高める。					<b>0.5</b>
	実践講義力養成講座養成講座	実践講義力養成講座の目的を確認するとともに、事前課題（コミュニケーションシート、個別課題）への取り組み方と講師からのメッセージを理解する。	1.実践講義力養成講座の目的 2.事前課題（コミュニケーションシート・個別課題）の説明 3.講師からのメッセージ	1)講習会（対面）の学修目標とそれに対するアプローチ（学修内容）について理解している。 2)事前課題のスケジュールと実施方法を理解している。 3-1)話すことや講義で教えることに関する自分自身の経験を振り返り、自覚している課題やニーズを講師に伝えることができる。 3-2)講師からの事前課題と個別フィードバックを受け、講習会に向けて効果的に準備を進めることができる。	0.5
<b>4 リカレント教育体験講座</b> 【講座の目的】高専におけるリカレント教育を実体験し、リカレント教育プログラムのレベル設定を理解するとともに、目指すべき実務家教員像を具体化する。					<b>10</b>
	リカレント教育体験講座（目的・事前課題）	リカレント教育体験講座の目的を確認するとともに、事前課題への取り組み方（①自己PRシートの作成、②維持管理計画立案演習の個別検討）を理解する。	1.リカレント教育体験講座の目的 2.事前課題（①自己PRシートの作成、②維持管理計画立案演習の個別検討）の説明	1)リカレント教育体験講座の目標と講習会での学修内容を理解している。 2)事前課題①「自己PRシート」スライドの作成方法を把握している。 3)事前課題②「維持管理計画立案演習の個別検討」について、提示情報をもとに推理を進め、個別検討結果をスライドにまとめることができる。	0.5
	橋梁点検【導入編】	橋梁メンテナンスの学修に必要な構造力学や橋梁工学の初歩的な知識、及び、専門用語の読み方や意味を修得する。	1.橋梁工学基礎（その1） 2.橋梁工学基礎（その2）	1)～2)橋梁メンテナンスの学修に必要な構造力学や橋梁工学の初歩的な知識、及び、専門用語の読み方や意味を修得する。	1.5

実務家教員育成研修プログラム【eラーニング講座シラバス】

No	eラーニング講座名	eラーニングの到達目標	eラーニングの学修項目	eラーニングの学修項目毎の到達目標	学修時間
					eラーニング
	橋梁点検【基礎編】	橋梁工学に関する知識、道路構造物の損傷に関する知識、及び、一般的な橋梁形式の道路橋の点検業務に必要な知識を修得する。	1.橋梁工学 2.コンクリート構造物の損傷 3.鋼構造物の損傷 4.構造物の補修・補強 5.共通の損傷 6.橋の点検要領 7.鋼橋の点検 8.コンクリート橋の点検 9.構造物の詳細調査	1)橋梁工学に関する知識を修得している。 2)～5)道路構造物の損傷に関する知識を修得している。 6)～9)一般的な橋梁形式の道路橋の点検業務に必要な知識を修得している。	8
5 教育能力養成講座		【講座の目的】実務家教員としての教育実践に向けて、教えるための技能（学修設計能力、学修指導能力、学修評価能力）を修得する。			4
	授業設計とシラバス	実務家教員として授業科目やリカレント教育プログラムを設計し、自ら担当する授業科目やリカレント教育プログラムのシラバスを作成できる。	1.授業設計 2.シラバスの書き方	1)授業設計に関する基本的な知識を修得し、また、授業設計の意義と必要性について理解できている。 2)シラバスの各記載項目とそれぞれの書き方に関する知識を修得している。	1
	教授法とアクティブ・ラーニング	学修内容に適した教授法を選択し、もっと良い授業を実施できるようになる。 アクティブラーニングを効果的に取り入れた授業を設計できるようになる。	1.教授法の基礎 2.アクティブラーニング 3.授業骨子の作成（事前課題の説明を含む）	1)教授法に関する基礎的な知識やノウハウを修得している。 2)アクティブラーニングに関する基本的な知識を修得し、技法の種類、実施上の注意点やノウハウについて理解している。 3)授業設計時のポイントと、事前課題「授業骨子の作成」の取組み方について理解している。	1
	教材研究と教材作成	学習者の心を動かす教材を開発できるようになる。 実際の教材作成を円滑に進めることができる。 著作物を適切に利用できるようになる。	1.教材研究の基礎 2.教材作成上の留意点 3.学校教育における著作権	1)教材研究に関する基礎的な知識を修得し、その理論について理解している。 2)高等教育における教材の種類や、実際に授業で使用する教材を作成する際の留意点について理解している。 3)著作権に関する基礎的な知識を修得し、学校教育において著作物を教材として利用する際の留意点について理解している。	1
	成績評価	自らが設計・指導した授業と事前・事後学修により、学習者が学習目標にどれだけ達成したかを測定できる。 自らが設計し、指導し、成績を評価した授業を振り返り、次の改善に結びつけることができる。	1.学生の成績評価 2.授業の振り返り	1)成績評価の目的、方法、及び、実施上の留意点について理解している。 2)授業を振り返る意義とその方法について理解している。	1
6 実証講座教育実習		【講座の目的】実証講座の設計・指導・評価を行い、実務家教員としての実践を経験する。			8.5
	実証講座教育実習（目的と進め方）	実証講座教育実習の目的と当日の進め方を理解する。	1.実証講座教育実習の目的 2.インフラメンテナンス講座2021 3.教育実習の進め方と留意点 4.アクティブラーニングの実践	1)実証講座教育実習の目的と実施項目について理解している。 2)インフラメンテナンス講座2021の趣旨と実施概要を理解している。 3)教育実習のスケジュール、受講者と受講形態と位置づけ、評価方法、実施上の留意点を理解している。 4)参加・体験型授業の実証・検証の進め方と役割を理解している。	1
	【Aチーム】eラーニング講座タイトル	【Aチーム】が設定	【Aチーム】が設定	【Aチーム】が設定	2.5
	【Bチーム】eラーニング講座タイトル	【Bチーム】が設定	【Bチーム】が設定	【Bチーム】が設定	2.5
	【Cチーム】eラーニング講座タイトル	【Cチーム】が設定	【Cチーム】が設定	【Cチーム】が設定	2.5
7 プログラム修了評価		【講座の目的】プログラム全体を振り返り、実務家教員としての役割とキャリアパスを考える。			0
	なし	—	—	—	0
eラーニング学修時間合計（時間）					30

# 実務家教員育成研修プログラム【全体シラバス】

No	授業名	各授業の目的（到達目標）	各授業の学修・実施内容 ※赤字：「実践的な方法による授業」の実施内容	「実践的な方法による授業」の該当要件 (要件該当授業時数)	事前学修（eラーニング・事前課題）	課題提出物	学修時間（時間）		
							講習会	eラーニング	
<b>1 実務家教員の教養講座</b>								<b>3.5</b>	<b>6.5</b>
	開講式	実務家教員育成研修プログラムの位置づけと趣旨を理解する プログラム受講に関する受講生の疑問点や不安点を解消する 講師等の経歴と人柄に触れ、信頼関係構築を促す 受講者の経歴と人柄に触れ、受講者間の交流と信頼関係構築を促す	・開講式 ・ガイダンス ・実務家教員としての自己紹介（受講者・講師等）【発表内容に対して相互フィードバックを実施】	双方又は多方向に行われる討議を伴う授業 (1時間)	< eラーニング>（受講時間計：6.5時間） ・KOSEN-REIM ・Society5.0と実務家教員 ・実践と理論の融合 ・高等教育と成人教育 ・コンプライアンスと倫理	・事前課題「実務家教員としての自己紹介」【修正版】 (提出ファイル形式：パワーポイント)	2	6.5	
	実務家教員の教養講座導入	実務家教員の教養講座のeラーニングの要点を確認する	・eラーニング講座の振り返り ・ポイント解説と質疑・応答	—		・第1回ミニットペーパー（提出ファイル形式：ワード） ・第1回評価・検証シート（提出ファイル形式：エクセル） ・第1回講習会受講者アンケート（回答方法：Microsoft Forms）	1		
	実務家教員としての専門領域	実務家教員としての専門領域を認識する	【ワークショップ形式】 ・全体ワーク：『実務能力マッピング』を作成する	双方又は多方向に行われる討議を伴う授業 実務家教員や実務家による授業 (0.25時間)	<事前課題>		0.25		
	実務家教員のキャリアの「核」	実務家教員のキャリアの「核」となる「私のミッション」を確認・発見する	・グループワーク：「私のミッション」について考える【少数者に分かれてグループディスカッションを実施、グループワーク成果を発表・共有】	双方又は多方向に行われる討議を伴う授業 (0.25時間)	・『実務家教員としての自己紹介』の作成		0.25		
<b>2 実務経験と専門性の棚卸講座</b>								<b>3</b>	<b>0.5</b>
	実務経験と専門性の棚卸講座	自らの実務経験と専門性を体系的に整理化する 自らの実務経験と専門性を言語化・視覚化し、他者に伝える 他者のプレゼンを通して、自らの実務経験や専門性を俯瞰する 的確な質問・指摘を行い、他者の実務経験と専門性を引き出す	・職務経歴と職務実績のプレゼンテーション【一人ずつプレゼンテーション、プレゼンテーションに対する受講者からの代表質問、発表者に対して講師・受講者全員からフィードバック】	双方又は多方向に行われる討議を伴う授業 実務家教員や実務家による授業 (3時間)	< eラーニング>（受講時間計：0.5時間） ・実務経験と専門性の棚卸講座	・事前課題「実務家教員としての自己紹介」【修正版】 (提出ファイル形式：パワーポイント)（再掲） ・第1回ミニットペーパー（提出ファイル形式：ワード） (再掲) ・第1回評価・検証シート（提出ファイル形式：エクセル） (再掲) ・第1回講習会受講者アンケート（回答方法：Microsoft Forms）（再掲）	3	0.5	
<b>3 実践講義力養成講座</b>								<b>6</b>	<b>0.5</b>
	アイスブレイク	アイスブレイクを実体験し、初対面の緊張感をほぐす。 受講者同士の対話と信頼関係構築を促す。 講師等の経歴と人柄に触れ、信頼関係構築を促す。	【ワークショップ形式の体験型学習】 ・ブリッジコンテスト（個人戦） ・ブリッジコンテスト（団体戦）	双方又は多方向に行われる討議を伴う授業 実務家教員や実務家による授業 (1時間)	—		1	0.5	
	傾聴力講座	話し手に心理的安心感をもって、言葉を発してもらうスキル(=傾聴力)を分解して体感し、実践できるようになる 傾聴力を生かした講座の導入ができるようになる 講師とは、教える仕事であり、同時に聞く仕事でもあるということを納得感をもって理解できるようになる	【ワークショップ形式の体験型学習】 ・「教えるということは、半分の時間は聞くということだ」ということへの気付きを与える。 ・個々の聞く姿勢の癖への気付きを与える。 ・聞く姿勢の違いが開示に与える変化を考える機会をつくる。	双方又は多方向に行われる討議を伴う授業 実務家教員や実務家による授業 (1.5時間)			1.5		
	話し方講座	< 1部> 話す内容(バーバル情報)よりも声のベース、トーン、など講師のノンバーバル情報から多くのことが伝わるということを知り注意を向けられるようになる 芯のある声が届けられるよう、腹式呼吸を使った発声法についてを知り、必要に応じて自分でトレーニングできるようになる 言葉、文節を強調するテクニカルな方法を知り、必要に応じて自分でトレーニングできるようになる < 2部> 同じ話をする場合でも、対象に応じて構成と内容を意識する必要があることを知り、実践できるようになる 専門が異なる聴衆の理解を助けるために、たとえを使うことが有効であることを知り、実践できるようになる 具体的な、講師が知っておくといふ講義のテクニックを知り、自分にあったものを選び実践できるようになる < 3部> 1部2部で学んだこと、それから午前の傾聴力をを集約、駆使し、実際に将来的に受け持つ講義をイメージして、それぞれの専門や、なにが教えられるのかについて、観衆を惹きつけ、ケアをしながら効果的に話せるようになる	【ワークショップ形式の体験型学習】 < 1部> ・声や話し方に意識を向ける意味 ・講師としての姿勢 ・発声などの基礎トレーニング ・伝えるためのテクニカルな強調法（言葉の強調と文の強調） < 2部> ・【構成】と【対象】を意識した伝え方 ・対象によって言葉に選び方や足し方、例えなどを変える話し方の訓練 ・理解を助ける例えの使い方 ・教える場を作るテクニック < 3部> ・【専門領域】で1部、2部での学びを取り入れる実践演習 ・使っている言葉が講義対象者（高専生、新入社員・新任職員、異分野技術者等）に伝えるのに相応しいかという視点での振り返り ・【傾聴力講座】での学修内容を加えた『話し方講座』のまとめ	双方又は多方向に行われる討議を伴う授業 実務家教員や実務家による授業 (3.5時間)	< eラーニング>（受講時間計：0.5時間） ・実践講義力養成講座	・第2回ミニットペーパー（提出ファイル形式：ワード） ・第2回評価・検証シート（提出ファイル形式：エクセル） ・第2回講習会受講者アンケート（回答方法：Microsoft Forms）	3.5		
<b>4 リカレント教育体験講座</b>								<b>12</b>	<b>10</b>
	e + i M e c 講習会【基礎編（橋梁点検）】	《共通》自らが目指す実務家教員像を具体的にイメージする 《共通》高専におけるリカレント教育プログラムの目的やスタンス、教育的配慮について理解する 《共通》e + i M e c 講習会【基礎編（橋梁点検）】のレベル設定、学修到達目標、カリキュラム内容を把握する 《共通》事前学修のeラーニングで受講者共通の知識基盤を形成することが、対面講習会の学修効果の向上に繋がることを実感する 《共通》受講生の知識・技術レベルに合わせた教え方をすることがあることを理解し、講師として指導する際のポイントや留意事項を具体的に認識する 《共通》実践的なインフラメンテナンス教育における体験型学修の重要性について理解する 《維持管理計画》維持管理計画立案演習の個別検討とグループワークに取組むことで、アクティブ・ラーニングのねらいや効果を納得する 《学修到達度確認試験》学修到達度確認試験の実施方法、合格基準、合格率、及び、合格者への技術資格認定制度について理解する 《学修到達度確認試験》学修到達度確認試験の出題範囲、出題方法、レベル設定について理解する	【リカレント教育プログラム体験受講による現場研修】 ・ガイダンス ・橋梁工学 ・コンクリート構造物の損傷と対策 ・鋼構造物の損傷と対策、共通の損傷 ・維持管理計画 ・現場実習ガイダンス ・コンクリート橋の点検 ・鋼橋の点検 ・詳細調査手法 ・学修到達度確認試験 ・修了式	双方又は多方向に行われる討議を伴う授業 実務家教員や実務家による授業 実地での体験活動を伴う授業 (11時間)	< eラーニング>（受講時間計：10時間） ・リカレント教育体験講座 ・橋梁点検【導入編】 ・橋梁点検【基礎編】	・事後課題「学修到達度確認試験仲間演習」（提出ファイル形式：パワーポイント） ・第3回ミニットペーパー（提出ファイル形式：ワード） ・第3回評価・検証シート（提出ファイル形式：エクセル） ・第3回講習会受講者アンケート（回答方法：Microsoft Forms）	11	10	
	リカレント教育体験の振り返り	実証講座教育実習に向けて、アクティブラーニングに適したテーマを設定し、教材や実施方法を考案する手がかりを得る	【少数者に分かれてグループディスカッションを実施、グループワーク成果を発表・共有】 ・気付きの共有 ・アクティブラーニングの考案	双方又は多方向に行われる討議を伴う授業 実務家教員や実務家による授業 (1時間)			1		
<b>5 教育能力養成講座</b>								<b>12</b>	<b>4</b>
	教育能力養成講座導入	eラーニング講座を振り返って学修設計・実施・評価能力のポイントを確認する eラーニング講座の疑問点や腑に落ちない点を解消する	・各eラーニング講座のねらい ・eラーニング受講者アンケート結果 ・ポイント解説と質疑・応答	—			1	4	
	ファシリテーション	受講者から意見を引き出すためのファシリテーションの素養を身につける。	・ファシリテーションとは【講義】 ・授業でのファシリテーションの特徴【講義】 ・本当の学びへのファシリテーション【ワークショップ形式の体験型学習】 ・ファシリテーションの基礎スキル【ワークショップ形式の体験型学習】	双方又は多方向に行われる討議を伴う授業 (0.5時間)			1		

## 実務家教員育成研修プログラム【全体シラバス】

No	授業名	各授業の目的（到達目標）	各授業の学修・実施内容 ※赤字：「実践的な方法による授業」の実施内容	「実践的な方法による授業」の該当要件 （要件該当授業時数）	事前学修（eラーニング・事前課題）	課題提出物	学修時間（時間）		
							講習会	eラーニング	
	授業デザイン	（授業骨子の作成） チームメンバーの授業骨子の内容を相互に把握する。 チームメンバーからのフィードバックを受け、事前課題「授業骨子（1コマ・90分）」をブラッシュアップする（講習会カリキュラムの作成） グループワークにより、チームメンバーの授業骨子の内容を活かした講習会カリキュラム骨子を作成する 全体発表及びフィードバックにより、チームとしての講習会カリキュラム骨子をブラッシュアップする	【教育実習プログラム開発ワークショップ】 （授業骨子の作成） ・教育実習グループ分けの発表と意図の説明 ・グループワーク：メンバー作成授業骨子の共有 ・講習会カリキュラム検討に向けて授業骨子を修正（講習会カリキュラムの作成） ・講習会カリキュラムの骨子作成と様式の説明 ・グループワーク：講習会カリキュラム骨子作成 ・成果共有：グループワーク成果発表と意見交換 ・グループワーク：ブラッシュアップ・とりまとめ	双方又は多方向に行われる討議を伴う授業 実務家教員や実務家による授業 （4時間）	< eラーニング >（受講時間計：4時間） ・授業設計とシラバス ・教授法とアクティブラーニング ・教材研究と教材作成 ・成績評価	・事前課題「授業骨子（1コマ・90分）」【修正版】（提出ファイル形式：パワーポイント） ・事後課題「授業骨子（1コマ・45分）」（提出ファイル形式：パワーポイント） ・教材作成スケジュール（提出ファイル形式：エクセル） ・グループ成果品「講習会カリキュラム骨子」（提出ファイル形式：パワーポイント） ・グループ成果品「参加型・体験型授業骨子」（提出ファイル形式：パワーポイント） ・成績評価	4	4	
	アクティブラーニング	グループワークにより、アクティブラーニングの手法を用いた参加型・体験型授業を設計し、参加型・体験型授業の骨子を作成する ペーパーセミナー（アクティブラーニングの技法）による協同学習により、各チームの参加型・体験型授業の骨子をブラッシュアップする	【教育実習プログラム開発ワークショップ】 ・参加型・体験型授業骨子作成と様式の説明 ・グループワーク：参加型・体験型授業骨子案作成 ・成果共有：ペーパーセミナー（協同学習） ・成果共有の評価結果等を所属チームへフィードバック ・グループワーク：参加型・体験型授業骨子をブラッシュアップ	双方又は多方向に行われる討議を伴う授業 実務家教員や実務家による授業 （3.5時間）	< 事前課題 > ・授業骨子の作成（提出ファイル形式：パワーポイント）	・グループ成果品「参加型・体験型授業ルーブリック評価表」（提出ファイル形式：パワーポイント） ・グループ成果品「グループ作業スケジュール」（提出ファイル形式：エクセル） ・第4回ミニットペーパー（提出ファイル形式：ワード） ・第4回評価・検証シート（提出ファイル形式：エクセル） ・第4回講習会受講者アンケート（回答方法：Microsoft Forms）	3.5		
	教材研究と教材作成	授業の目標達成に向け、自らの実務経験や実践知を教材化し、授業を構成していくイメージを掴む テキスト、スライド資料（eラーニング用、授業用）、配布資料の作成上の留意点を理解し、実際に作成する教材のイメージを掴む	【教育実習プログラム開発ワークショップ】 ・教材作成上の留意点【講義】 ・教育実習に向けた教材作成ルール説明【講義】 ・グループワーク：教材作成スケジュールの作成	双方又は多方向に行われる討議を伴う授業 （0.5時間）			1		
	成績評価	いろいろな学修到達度確認試験問題を閲覧し、選択式問題作成上のポイントを理解する 参加型・体験型授業の評価シート案の作成演習により、ルーブリックの具体的なつくり方を理解する	【教育実習プログラム開発ワークショップ】 ・実証講座教育実習で取組む評価【講義】 ・全体ワーク：イケてる選択式問題について考える ・ルーブリック評価について考える【講義】 ・グループワーク：参加型・体験型学習のルーブリック評価表の作成	双方又は多方向に行われる討議を伴う授業 （0.5時間）			1.5		
6	実証講座教育実習	【講座の目的】実証講座の設計・指導・評価を行い、実務家教員としての実践を経験する。						18.5	8.5
	中間発表 ※チーム毎に実施	実証講座教育実習に向けた進捗状況と作業スケジュールを確認する。 講習会カリキュラム内容、アクティブラーニングの設計方法、授業骨子、教材作成について、講師からアドバイスを受け、質疑応答を行う。	【教育実習中間発表】 ・中間発表：①～④についてプレゼンテーション ①講習会カリキュラム（全体）骨子 ②参加型・体験型授業骨子 ③eラーニング（スライド・ノート） ④授業骨子（各講義） ・フィードバック：アドバイス・質疑応答 ・グループディスカッション：方針検討等	双方又は多方向に行われる討議を伴う授業 実務家教員や実務家による授業 （1.5時間）	< 事前課題 > ・中間発表資料の提出	・講習会カリキュラム（時点版） ・参加型・体験型授業骨子（時点版） ・eラーニング（スライド・ノート）（時点版） ・授業骨子（時点版）	1.5		
	前日準備	教材、配布資料、講義スライド、会場レイアウト、会場設備、使用備品等を確認する。 講習会の学修指導内容・方法等について、各チームで最終確認する。 講習会の運営に際しての役割分担について、事務局と最終調整する。	【教育実習準備】 ・教材、配布資料、講義スライド、会場レイアウト、会場設備、使用備品等の確認 ・チームミーティング ・事務局とのミーティング	実地での体験活動を伴う授業 （2時間）	< eラーニング >（受講時間計：8.5時間） ・実証講座教育実習（目的と進め方） ・Aチーム eラーニング講座 ・Bチーム eラーニング講座 ・Cチーム eラーニング講座 < 事前課題 > ・教育実習教材の作成・確認（指定のファイル形式） ・シラバス ・eラーニング（スライド・ノート・チェックテスト）	・教育実習教材 ・シラバス ・eラーニング（スライド・ノート・チェックテスト） ・講習会スライド ・講習会テキスト	2		
	教育実習	高専生を対象とした教育実習（eラーニング及び各種教材作成含む）に取組み、実務家教員としての教育能力（教育設計・指導・評価能力）を向上する。 高専生対象に、実務家教員育成研修プログラムで学んだ知識・技能と自らの実務経験・実務能力を活かした講義・指導を行う。 自ら設計した講義、及び、所属チームで設計した参加型・体験型授業（アクティブ・ラーニング）の学修効果を検証する。 他者の講義、及び、他チームの講習会を聴講し、相互に学び合うことで、教える技術（教育能力）の向上に繋げる。	【教育実習実践】 ・教育実習 【Aチーム】 【Bチーム】 【Cチーム】	実務家教員や実務家による授業 実地での体験活動を伴う授業 （12時間）	・教育実習教材の作成・確認（指定のファイル形式） ・シラバス ・eラーニング（スライド・ノート・チェックテスト） ・講習会スライド ・講習会テキスト ・学修到達度確認テスト	・学修到達度確認テスト ・ミニットペーパー ・アンケート	12		
	学修到達度チェックテスト	受講者（高専生）の学修到達度を確認する。 学修到達度確認テストの有効性と難易度を確認する。	【教育実習実践】 ・学修到達度チェックテスト 【Aチーム】 【Bチーム】 【Cチーム】	実地での体験活動を伴う授業 （1時間）	・アンケート	・使用備品・準備物リスト ・ルーブリック評価表 ・教育実習評価シート（提出ファイル形式：エクセル） ・教育実習講習会アンケート（回答方法：Microsoft Forms）	1		
	教育実習の振り返り	教育実習を振り返り、講師から講評を行う。 チーム毎に振り返りを行い、各講習会の学修効果や課題を検証する。 教育実習で得た学びを、受講者間で共有する。	【教育実習実践】 ・講師からの講評 ・グループワーク：振り返り・相互フィードバック ・成果共有：グループワーク成果発表と意見交換	双方又は多方向に行われる討議を伴う授業 実務家教員や実務家による授業 実地での体験活動を伴う授業 （2時間）	・使用備品・準備物リスト ・ルーブリック評価表	・第5回ミニットペーパー（提出ファイル形式：ワード） ・第5回評価・検証シート（提出ファイル形式：エクセル） ・第5回講習会受講者アンケート（回答方法：Microsoft Forms）	2		
7	プログラム修了評価	【講座の目的】プログラム全体を振り返り、実務家教員としての役割とキャリアパスを考える。						5	0
	プログラム全体の振り返り	実務家教員育成研修プログラムで学んできたことを総括する。 実務家教員として成長するためのポイントを確認する。 本プログラム（第1回～第5回）の評価結果を確認し、他者(他の実務家受講者、検定者)の視点から本プログラムの価値を認識する。	・プログラム全体の振り返り ・全体ディスカッション：受講者個人評価の共有 ・プログラムの評価	双方又は多方向に行われる討議を伴う授業 （0.5時間）			2		
	実務家教員としてのキャリアパス①	事前課題（6W2Hで考える実務家教員としての行動計画の作成）で整理した自らの考えを、フリーディスカッションを通して深める。 インフラメンテナンス分野の実務家教員として、どんな場面でどんな活躍・活動ができる・したい・すべきか、どんな価値を提供できる・したい・すべきかを明確化する。	・グループディスカッション：実務家教員のミッション～実務家教員はどんな価値を提供できるのか～ ・全体ディスカッション：グループディスカッション内容の共有	双方又は多方向に行われる討議を伴う授業 （1.5時間）	< 事前課題 > ・6W2Hで考える実務家教員としての行動計画の作成（提出ファイル形式：パワーポイント）	・事前課題「6W2Hで考える実務家教員としての行動計画」【更新版】（提出ファイル形式：パワーポイント） ・第6回ミニットペーパー（提出ファイル形式：ワード） ・第6回評価・検証シート（提出ファイル形式：エクセル） ・第6回講習会受講者アンケート（回答方法：Microsoft Forms）	1.5		
	実務家教員としてのキャリアパス②	高専のリカレント教育の位置づけや理念を理解する。 高専のリカレント教育において、実務家教員がどのように関わり、どのような活躍ができるか具体的にイメージする。	・高専のリカレント教育講座（e + i M e c 講習会）の説明 ・質疑応答	—			0.5		
	まとめ	講師・受講者間で、本プログラムを受講した感想を共有する。	・受講者との関係【講義】 ・全体ディスカッション：フリートーク	双方又は多方向に行われる討議を伴う授業 実務家教員や実務家による授業 （1時間）			1		
「実践的な方法による授業」の要件該当授業時数計（時間）							53		
各学修時間の合計（時間）							60	30	
全学修時間（講習会, eラーニング）（時間）							90		

### 【実務家教員育成研修プログラム修了要件】

次の①②③④をすべて満たす者を修了者とし、履歴証明書を授与する。

- ①すべてのeラーニングを修了していること
- ②すべての講習会（全6回）に出席していること
- ③すべての課題提出物を提出していること
- ④実証講座教育実習の評価が合格基準に達していること